



# 都市での木づかい、 企業が木づかい



京都議定書目標達成に貢献するために始まった木づかい運動。木材、特に国産材を上手に伐って使う「木づかい」を広めることが、地球温暖化防止への貢献や、地域活性化、木の持つ調湿作用や香りによるリラックス効果など、環境や社会、私たちの生活により効果をもたらします。

日本の人工林が利用期を迎える中、建築事業者、設計事業者や実際にこれら建築物の施主となる企業が一堂に会した「ウッド・チェンジ・ネットワーク」が立ち上がり、木材利用に関する課題の特定や解決方法などを協議、検討することで民間分野での木材利用を広げていく新たな取組が進んでいます。また、SDGs（持続可能な開発目標）やエシカル（倫理的）消費など、企業や一般消費者に、持続可能な暮らしや社会を営むための行動が求められていることを踏まえつつ、民間企業で働く人々や利用者、持続可能な社会にとって木材が魅力的な材料であることを、都市のオフィスや店舗等で国産材を利用している先進的な施設等を例に紹介します。



## 研修施設「TOKIO MARINE Career Development Center」(東京都新宿区)

コーポレート運用部 不動産グループ グループリーダー 平野 昌史<sup>まさし</sup>さん



外観

弊社は、各地方の「地方創生」の取り組みに貢献し、地方とともに成長することを目指しています。そうした中、木材の持つ優しさや温もりにはリラックス効果があると言われていることから、研修施設に国産木材を利用することで、「リラックスすることで研修効果の向上」と「各地方の林業に貢献」の2点を実現させることを主な狙いとししました。

2019年4月に利用を開始してから半年ほど経ちましたが、同施設を利用した方々から木材利用を評価するコメントが多く寄せられています。中でも、設計事務所との打合せをしっかりと重ねたことで、「木材利用によるリラックス効果」を研修施設の設計プランに反映させたため、当初期待していた「木材利用により研修効果の向上」という結果を得ることができました。

今後は、研修施設利用者の声をさらに収集し、他の分野についても木材利用の可能性を検討していきたいと考えています。また、弊社は林野庁が主催する「ウッド・チェンジ・ネットワーク」にも委員として参加していることから、研修施設利用者の声を林野庁、並びに委員の皆様と共有し、国内の木材利用促進にも貢献していきたいと考えています。



CLT 造中門



エントランス



2階



1階の階段





江東区有明西学園

## 事例2 株式会社竹中工務店

### 竹中工務店が手がけた木造中大規模建築物

木造・木質建築推進本部 副部長 小林 道和さん

木質建材の大きなメリットの一つに、「軽さ」が挙げられます。木を使った建材の軽さは、建物を支える基礎工事の簡略化、運搬や組立設置工事の作業性向上から建設コストの合理化を可能にします。また加工のしやすさや「軽さ」に対する材料の強さ、木質バイオマスの燃料や他の建材への再利用などの多くの特長を有しています。建築計画や工事施工、維持メンテナンスから解体までで他の建材にはない強みを発揮します。

中でも、弊社が手がけた兵庫県林業会館（2019年2月に竣工）などで活用した直交集成板CLT（木の板を互い違いに直角に重ねて接着剤で一体化した木のパネル）は、木の美しい表面を活かしたデザイン、高い強度が求められる耐震壁や床への適用、工期短縮などを実現しており、今後の木の建材としての可能性を大いに拡大するものであると考えています。



兵庫県林業会館

建築物の木造化は森林資源の循環を活性化し、さらに企業や各国政府が取り組むSDGsの達成に貢

献します。竹中工務店は、建築物の木造・木質化という手段を通じて、森林資源の循環と持続可能なまちづくりを一体的に実現する森林グランドサイクル®の構築に向けて、木造建築の安全性を高めるための技術開発と社会が求める建築・まちづくりに取り組んでいきたいと考えています。



PARKWOOD 高森（仙台市）





木端材で制作した作品



### 事例3 スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社

#### ムスブ田町2階店

広報部／コンシューマー PR & Local Marketing チーム 大竹 史生<sup>ふみお</sup>さん



内観

この店舗は、東京都港区から【みなとモデル二酸化炭素固定認証制度】をご紹介いただき、その内容に共感したことで港区の協定自治体である秋田県湯沢市のナラ材を使用し設計しました。

本物の木材が持つ豊かな表情は、意匠的にも大変重要です。特に、お客様が直接触れられるテーブル等に木を使うことで、自然の暖かみが感じられる居心地の良い空間でコーヒーをお楽しみいただけるのではないかと考えています。

こうした木材を使用する際に気をつけていることは、<sup>そ</sup>りや割れによる怪我の防止や、コーヒーのシミなどのメンテナンスについてです。ただ、メンテナンスのしやすさだけに目を向けると木の風合いが<sup>そ</sup>損なわれてしまうため、木材の魅力と機能性のバランスを考慮するように心がけています。

私たちが国産木材、特に地元木材を活用する一番の目的は、その土地で育った木材を“使う”そして“知る”ことで、お客様と地域をつなげるきっかけになるのではないかと考えるからです。だからこそ、多様なお客様にご利用いただける場所で、もっと木材が使いやすくなるような制度や事業が増えることに期待しています。

### 非住宅木造推進アプローチブック

#### 「時流をつかめ！企業価値を高める木造建築 ～持続可能な木材利用を経営戦略に取りこもう～」の制作・発行について

農林中央金庫が事務局を務めるウッドソリューション・ネットワークは、事業用建物の建築を検討している施主（経営者）に木造化を提案するアプローチブックとして、「時流をつかめ！企業価値を高める木造建築～持続可能な木材利用を経営戦略に取りこもう～」を制作いたしました。

ウッドソリューション・ネットワークは、林業・木材産業に関連する企業・団体で構成され、木材の生産・加工から建築物等への利用までの各段階における課題解決を通じ、木材利用の拡大を目指して活動しております。

本誌では、これまで木造建築に取り組んだことのない施主の皆様へ、木造建築の意義やメリットをご認識いただくとともに、木造建築に対する不安を払拭いただくことを目的に、木造建築の実例や経営者のインタビュー等を掲載しております。実例ページでは、一般的に取組みやすくなってきた 2,000 ～ 3,000㎡・2 ～ 3 階建て・準耐火建築の事例をご紹介します。本誌は、農林中央金庫ホームページにて閲覧いただけます。





日本チームの活躍で盛り上がりを見せたラグビーワールドカップ2019 日本大会の会場でも国産材は利用されています。

## 岩手県釜石市



メインスタンド



木製仮設シート



木製本設シート



W杯フィジー VS ウルグアイ戦

### かまいしうのすまい 釜石鵜住居復興スタジアム

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の会場となった「釜石鵜住居復興スタジアム」は、岩手県釜石市で発生した大規模林野火災で被害を受けたスギ材を約 800m<sup>3</sup> 利用し、三陸の漁場を育む森林資源の豊かさを伝えとともに、所有林が被災した山林所有者の支援につながっています。

同スタジアムは、「鉄と魚とラグビーのまち」を掲げる釜石市が東日本大震災からの復興のシンボルとして、震災時の津波で被災した釜石市立鵜住居小学校・釜石東中学校の跡地に建設したものです。

スタジアム建設に際して、地元の釜石地方森林組合は当初、釜石市に対して間伐材の利用を提案してきましたが、2017 年に市内で 413ha が焼失する林野火災が発生したことを受けて、被害を受けた 50 年生前後のスギを活用することになりました。

被害材は皮を剥けば問題なく利用できましたが、当初は黒焦げになった丸太の販売は難航。しかしスタジアムでの活用が決まったことで、地元はもとより東北各地に販路が拡大し、山林所有者の経済的な損失も最小限に食い止めることができました。

常設シート 4990 席（6000 席中）のほか、VIP ルームとして利用される木製ラウンジ 8 棟や仮設シート 6300 席（1 万席中）などに採用され、全部で 800m<sup>3</sup> 前後が使用されました。

丸太生産から加工までを担当したのは、釜石市と大槌町、遠野市の木材関係者でつくる「上閉伊地区木材流通協議会」（事務局：釜石地方森林組合）です。復興需要が落ち込むことを見据えて 2016 年に発足した協議会は、丸太だけでなく製品を地域で生産し販売することを目的とし、スタジアムから半径 50km 圏内で木材部分の加工を完結することができました。

スギ材のシートは、樹脂製のシートに比べて熱くなりにくく、雨や汗で湿っても乾きやすいのが特徴で、今夏行われた日本代表戦や、ワールドカップ本番の観客にも好評でした。



メインスタジアムなどに設置された  
使用木材の案内板